

安全データシート(SDS)

作成: 2023/02/10

改訂: 2024/01/24

製品名: フルウォッシュ

1. 製品及び会社情報

製品名: フルウォッシュ
会社名: 東栄部品株式会社
住所: 東京都文京区本駒込6-3-6
電話番号: 03-3946-8111
FAX番号: 03-3946-8116
その他の情報: 【推奨用途】清掃・衛生分野 【使用上の注意】推奨用途以外への使用は禁止する

2. 危険有害性の要約

化学品のGHS分類	[区分]
急性毒性(経口)	区分に該当しない(区分外)
急性毒性(経皮)	区分に該当しない(区分外)
急性毒性(吸入:気体)	区分に該当しない(区分外)
急性毒性(吸入:蒸気)	区分に該当しない(区分外)
急性毒性(吸入:粉塵・ミスト)	区分に該当しない(区分外)
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分2
皮膚感作性	区分1
生殖毒性・授乳に対する又は授乳を介した影響	区分に該当しない(区分外)
水生環境有害性 短期(急性)	区分3
水生環境有害性 長期(慢性)	区分に該当しない(区分外)

GHSラベル要素

絵表示:



注意喚起語: 警告

危険有害性情報: 強い眼刺激
アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
水生生物に有害注意書き: 安全対策 環境への放出を避けること。
粉じん, 煙, ガス, ミスト, 蒸気, スプレーの吸入を避けること。
取扱い後は手, 顔などをよく洗うこと。
汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
保護手袋を着用すること。
保護眼鏡を着用すること。
応急措置 皮膚に付着した場合: 多量の水で洗うこと。
眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用して
いて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

特別な処置が必要である。

皮膚刺激又は発しんが生じた場合: 医師の診断, 手当てを受けること。

眼の刺激が続く場合: 医師の診断, 手当てを受けること。

安全データシート(SDS)

作成: 2023/02/10

改訂: 2024/01/24

製品名: フルウォッシュ

汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
保管 屋内の涼所に場所を定めて保管すること。
廃棄 内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別: 混合物

成分及び濃度又は濃度範囲

成分名称	含有量 wt.%	CAS RN	安衛法	化管法	毒劇法
			通知物質	指定物質	毒物劇物
アルファ-アルキル-オメガ-ヒドロキシポリ[オキシエタン-1,2-ジイル/オキシ(メチルエタン-1,2-ジイル)]	10-20	---	非該当	化合物群 集約物質 参照	非該当
ポリ(オキシエチレン)=アルキルエーテル	1-10	---	非該当	化合物群 集約物質 参照	非該当
直鎖アルキルベンゼンスルホン酸ナトリウム(C=10-13)	1-10	---	非該当	化合物群 集約物質 参照	非該当
トリエタノールアミン	0.1-1	102-71-6	該当	非該当	非該当
防腐剤	0.1-1	---	非該当	非該当	非該当
ジエチレングリコールモノメチルエーテル(別名メチルカルビトール)(安衛法通知/表示物質 令和6年4月1日以降)	0.1-1	111-77-3	該当	規制濃度 以下	非該当
直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩(アルキル基の炭素数が10から14までのもの及びその混合物に限る。)*	1.2	68411-30-3	非該当	1種	非該当
ポリ(オキシエチレン)=アルキルエーテル(アルキル基の炭素数が12から15までのもの及びその混合物に限る。)*	1.9	68002-97-1	非該当	1種	非該当
アルファ-アルキル-オメガ-ヒドロキシポリ[オキシエタン-1,2-ジイル/オキシ(メチルエタン-1,2-ジイル)](アルキル基の構造が分枝であり、かつ、当該アルキル基の炭素数が9から11までのものの混合物(当該アルキル基の炭素数が10のものを主成分とするものに限る。))*	12	166736-08-9	非該当	1種	非該当

*化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)規制物質(化合物群集約物質)

4. 応急措置

吸入した場合: 気分が悪くなった場合、空気の新鮮な場所で呼吸しやすい姿勢で休息させる。
症状が改善しない場合は、医師に連絡する。

皮膚に付着した場合: 皮膚に付着した場合、多量の水で洗うこと。
汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

安全データシート(SDS)

作成: 2023/02/10

改訂: 2024/01/24

製品名: フルウォッシュ

飲み込んだ場合:	眼の刺激が続く場合: 医師の診断, 手当を受けること。 必要に応じて、気分が悪くなった時は医師に連絡し、診断, 手当を受ける。
応急措置をする者の保護に必要な注意事項:	必要に応じて、口をすすぐこと。 第8項、「ばく露防止及び保護措置」に記載の保護具を着用すること。 ガス, 蒸気, ミスト, 粉じんなどが存在する場合は、換気を行うこと。

5. 火災時の措置

適切な消火剤:	この製品自体には燃焼性はない。
使ってはならない消火剤:	情報なし
火災時の特有の危険有害性:	情報なし
消火を行う者の保護	情報なし

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置:	作業の際には「第8項. ばく露防止及び保護措置」で規定する保護具を着用し、眼、皮膚への接触やガスや粉じん、ヒュームの吸入を避けること。 周辺を立ち入り禁止にして、関係者以外近づけないようにして二次災害を防止すること。 屋内の場合、換気をよくして、ガス、蒸気、ミスト、粉塵などの吸入を避けること。 屋外の場合、風上から作業し、風下の人を待避させること。
環境に対する注意事項:	やむを得ない場合を除いて、環境への放出を避けること。 排水処理設備を有する場合は、排水処理の責任者に連絡して漏出した製品を多量に含む排水が環境中へ排出されない様に対策を講じること。
封じ込め及び浄化の方法及び機材:	水生生物に悪影響を与えることがあるので、漏出物は下水、水路等に流れ出さない様に回収すること。 漏出物は密閉できる容器に回収し、安全な場所に移すこと。 付着物、廃棄物などは関係法規に基づいて処置すること。 少量の場合は、吸着剤(おがくず・土・砂・ウエス等)で吸収させ取り除いた後、残りをウエス、ぞうきん等でよく拭き取る。 大量の場合は、土砂等で囲って流出を防止し、スコップ又は吸引器などで空容器に回収する。
二次災害の防止策:	回収した製品は密閉できる容器に回収する。 周辺を立ち入り禁止にして、関係者以外近づけないようにして二次災害を防止すること。 関係部署(安全・衛生・環境・防災等)に連絡し、適切な対策を講じること。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

安全データシート(SDS)

作成: 2023/02/10

改訂: 2024/01/24

製品名: フルウォッシュ

技術的対策:	取扱い後は手、顔などをよく洗うこと。 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。 眼、皮膚、衣類につけないこと。 取扱い場所近くに緊急時に洗眼及び身体洗浄の為の設備を設置すること。 容器を転倒、落下、衝撃を加える、又は引きずる等の取扱いをしないこと。 取扱いに際しては、「第8項. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策(排気、換気)を行い、保護具を着用する等のばく露防止対策を講じること。 作業場の換気を十分に行うこと。
局所排気・全体換気:	取扱いに際しては、「第8項. ばく露防止及び保護措置」に記載の換気設備対策を行うこと。
安全取扱注意事項:	本安全データシート(SDS)を用いてリスク評価を行い、評価結果に基づき、適切な取り扱い方法を決め、遵守すること。 皮膚、粘膜、または着衣に触れたり、眼に入らないような設備とするか、保護具の着用によりばく露しないように注意すること。 取扱い後、付着があれば手、顔等を洗うこと。 休憩所や飲食スペース等には使用した保護具を持ち込まない様にする事。 過去に、アレルギー症状を経験している人は取り扱わないこと。 粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーの吸入を避けること。 取扱い後は手、顔などをよく洗うこと。
接触回避:	10. 安定性及び反応性の混触危険物質を参照すること。
保管	
安全な保管条件:	屋内の涼所に場所を定めて保管すること。
安全な容器包装材料:	製品容器又はそれに代わる十分な強度を有する容器を使用すること。

8. ばく露防止及び保護措置

設備対策等:	許容濃度が設定されている成分を含むので、換気設備を設けるなどして、十分な換気を行い、許容濃度以下に保つようにすること。 作業場の近くには手洗い、洗顔の設備を設け、取扱い後には手、顔を洗うようにすること。
--------	--

管理濃度および許容濃度

成分名称	厚生労働省労働安全衛生法作業環境測定基準	日本産業衛生学会	ACGIH	
	管理濃度	許容濃度	TWA	STEL/C
トリエタノールアミン	---	---	5mg/m3	---

保護具

呼吸用保護具:	適切な呼吸用のマスクを着用すること。
手の保護具:	保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

安全データシート(SDS)

作成: 2023/02/10

改訂: 2024/01/24

製品名: フルウォッシュ

眼、顔面の保護具:	薬剤を透過, 浸透しない適切な材質の保護手袋を着用すること。 経皮吸収性のある成分を含むので、薬剤を透過, 浸透させない適切な材質の保護手袋を着用すること。 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。 適切な保護眼鏡を着用すること。 必要に応じゴーグル形や保護面を使用すること。
皮膚及び身体の保護具:	保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。 皮膚を直接ばく露させない様な適切な保護衣を着用すること。 薬剤が浸透しない材質のものが望ましい。 管理濃度および許容濃度データに皮膚/Skinが表記されている場合は不浸透性の保護具の着用を検討する。 参考: 保護具のJIS(日本工業規格)としては、以下の様なものがあり、選定の参考にすることができる。 呼吸用保護具: JIS T 8151(防じんマスク), JIS T 8152(防毒マスク), JIS T 8153(送気マスク), JIS T 8155(空気呼吸器), JIS T 8156(酸素発生形循環式呼吸器), JIS T 8157(電動ファン付き呼吸用保護具) 手の保護具: JIS T 8116(化学防護手袋) 眼の保護具: JIS T 8147(保護めがね) 皮膚及び身体の保護具: JIS T 8115(化学防護服), JIS T 8117(化学防護長靴)

9. 物理的及び化学的性質

製品

外観 物理的状态:	液体
色:	無色～淡黄色
臭い:	情報なし
融点/凝固点:	データなし
沸点又は初留点 及び沸点範囲:	データなし
可燃性:	データなし
爆発下限界及び爆発上限界 /可燃限界:	データなし
引火点:	データなし
自然発火点:	データなし
分解温度:	データなし
pH:	約10.4(100%)
動粘性率:	データなし
溶解度:	データなし
n-オクタノール/水 分配係 数(log値):	データなし
蒸気圧:	データなし

安全データシート(SDS)

作成: 2023/02/10

改訂: 2024/01/24

製品名: フルウォッシュ

比重(密度 g/cm ³):	1.00-1.03(27°C)
相対ガス密度:	データなし
蒸発速度:	データなし
粒子特性:	データなし

10. 安定性及び反応性

反応性:	情報なし
化学的安定性:	通常の取扱い条件においては安定。
危険有害反応可能性:	情報なし
避けるべき条件:	情報なし
混触危険物質:	情報なし
危険有害な分解生成物:	情報なし

11. 有害性情報

製品

急性毒性(経口):	区分に該当しない(区分外)
急性毒性(経皮):	区分に該当しない(区分外)
急性毒性(吸入):	区分に該当しない(区分外)(気体) 区分に該当しない(区分外)(蒸気) 区分に該当しない(区分外)(粉塵・ミスト)
皮膚腐食性/刺激性:	分類できない
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性:	区分2
呼吸器感作性:	分類できない
皮膚感作性:	区分1
生殖細胞変異原性:	分類できない
発がん性:	分類できない
生殖毒性:	分類できない
特定標的臓器毒性(単回ばく露):	分類できない
特定標的臓器毒性(反復ばく露):	分類できない
誤えん有害性:	分類できない
その他の情報:	データなし。

成分

ポリ(オキシエチレン)＝アルキルエーテル

急性毒性(経口):	分類できない
急性毒性(経皮):	分類できない
急性毒性(吸入):	区分に該当しない(分類対象外)(気体) 区分に該当しない(分類対象外)(蒸気) 区分に該当しない(分類対象外)(粉塵・ミスト)
皮膚腐食性/刺激性:	区分2
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性:	区分1
呼吸器感作性:	分類できない
皮膚感作性:	分類できない

安全データシート(SDS)

作成: 2023/02/10

改訂: 2024/01/24

製品名: フルウォッシュ

生殖細胞変異原性:	分類できない
発がん性:	分類できない
生殖毒性:	分類できない
特定標的臓器毒性(単回ばく露):	分類できない
特定標的臓器毒性(反復ばく露):	分類できない
誤えん有害性:	分類できない
直鎖アルキルベンゼンスルホン酸ナトリウム(C=10-13)	
急性毒性(経口):	区分4 LD50: 404 mg/kg[ラット]
急性毒性(経皮):	分類できない LD50: > 2000 mg/kg[ラット]
急性毒性(吸入):	区分に該当しない(分類対象外)(気体) 区分に該当しない(分類対象外)(蒸気) 区分に該当しない(分類対象外)(粉塵・ミスト)
皮膚腐食性/刺激性:	分類できない
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性:	分類できない
呼吸器感作性:	分類できない
皮膚感作性:	分類できない
生殖細胞変異原性:	分類できない
発がん性:	分類できない
生殖毒性:	分類できない
特定標的臓器毒性(単回ばく露):	分類できない
特定標的臓器毒性(反復ばく露):	分類できない
誤えん有害性:	分類できない
トリエタノールアミン	
急性毒性(経口):	区分に該当しない(区分外) LD50: 4200~11300 mg/kg[ラット]
急性毒性(経皮):	区分に該当しない(区分外) LD50: > 2000 mg/kg[ウサギ]
急性毒性(吸入):	区分に該当しない(分類対象外)(気体) 分類できない(蒸気) 分類できない(粉塵・ミスト) 動物への影響: データなし。
皮膚腐食性/刺激性:	区分2 人への影響: ACGIH(7th, 2001)、SIDS(2001)、IARC 77(2000)、及びNTP TR 518(2004)の「ヒトで高濃度ばく露又は反復ばく露により皮膚刺激性が認められた」との記述から、区分2とした
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性:	区分2A 動物への影響: ACGIH(7th, 2001)、PATTY(6th, 2012)、及びNTP TR 518(2004)の「ウサギを用いた眼刺激性試験で刺激性が認められ、14日後に完全に回復した」との記述から、区分2Aとした。
呼吸器感作性:	分類できない 人への影響: データ不足のため分類できない。

安全データシート(SDS)

作成: 2023/02/10

改訂: 2024/01/24

製品名: フルウォッシュ

皮膚感作性:	区分1 人への影響: ACGIH(7th, 2001)、IARC 77(2000)、及びNTP TR 518(2004)の「ヒトでアレルギー性接触皮膚炎の報告がある」との記述から、区分1とした。
生殖細胞変異原性:	分類できない 症状 In vivoでは、マウスの末梢血を用いる小核試験で陰性の結果がある(IARC 77 (2000)、NTP TR 518 (2004)、NTP DB (Access on June 2013))。さらに、in vitroでは、細菌の復帰突然変異試験、哺乳類培養細胞の染色体異常試験で陰性である(SIDS (2001)、IARC 77 (2000)、ACGIH (7th, 2001)、NTP DB (Access on June 2013))。
発がん性:	分類できない IARC:3
生殖毒性:	分類できない 所見(症状) IARC 77 (2000)のラット及びマウスを用いた2,000 mg/kg以上の用量で13週間経皮投与した試験で精子検査及び雌の性周期に影響が認められなかったとの記述、NTP TR 518 (2004)の妊娠中マウスに1,125 mg/kgを経口投与した試験で胎児/出生児に影響が認められなかったとの記述、並びにIARC 77 (2000)のラットに500 mg/kg、マウスに2,000 mg/kgを交配前から授乳期間終了まで経皮投与した試験で繁殖能及び児動物の成長に影響が認められなかったとの記述から、経皮経路では区分外に相当するが、経口経路による繁殖試験データがないため、データ不足のため分類できないとした。
特定標的臓器毒性(単回ばく露):	区分3(気道刺激性) NTP TR 518(2004)のヒトへの影響として蒸気が鼻を刺激するとの記述から、区分3(気道刺激性)とした。
特定標的臓器毒性(反復ばく露):	区分に該当しない(区分外) IARC(2000)、ACGIH(7th, 2001)、PATTY(6th, 2012)に記載された経皮(マウス: 13週間及び2年間)、経口(ラット、マウス、モルモット: 12-13週間及び2年間)又は吸入(ラット、マウス: 16日間)ばく露試験において、いずれの試験も区分2のガイダンス値範囲の投与量を上回る用量(経皮(200-2,000 mg/kg/day)、経口(200-3,000 mg/kg/day)、吸入(0.36 mg/L/6 hr))までばく露しても、重大な毒性影響が認められなかったとの記述から区分外とした。
誤えん有害性:	分類できない 人への影響: データ不足のため分類できない。
急性毒性(経口):	区分4 LD50: 670~1200 mg/kg[ラット]
急性毒性(経皮):	区分に該当しない(区分外) LD50: > 2000 mg/kg[ラット]
急性毒性(吸入):	区分に該当しない(分類対象外)(気体) 分類できない(蒸気) 区分2(粉塵・ミスト) LC50: 0.25~0.5 mg/L[ラット]

防腐剤

安全データシート(SDS)

作成: 2023/02/10

改訂: 2024/01/24

製品名: フルウォッシュ

皮膚腐食性/刺激性:

区分2

人への影響: 10人のヒトボランティアに500~1000 ppmのプロピレングリコール溶液を24時間の閉塞塗布した試験で、4人に軽度、3人に明らかな皮膚の発赤が見られ、72時間後に6人が回復した。さらに1~2週間経過後2回目の適用では8人がやや重度の皮膚反応(紅斑や丘疹)を示した(DFGMAK-Doc. 2(1991))と報告されている。動物への影響: ウサギに本物質73.1%を含む製剤0.1 mLを4または1時間適用した皮膚刺激性試験において、4時間の適用で刺激物と評価された(DFGMAK-Doc. 2(1991))。以上の動物およびヒトでの試験結果に基づき区分2とした。

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性:

区分1

動物への影響: ウサギに12.5%の濃度で適用し、強い刺激物(a strong irritant)と評価(DFGMAK-Doc. 2(1991))され、EU分類ではR41と分類されている(EC-JRC(ESIS)(Access on July 2011))ことから、区分1とした。

呼吸器感作性:

分類できない

人への影響: データ不足のため分類できない。

皮膚感作性:

区分1A

人への影響: ヒト被験者を用いた皮膚感作性試験により、最終の惹起試験で15人中5人(33%)が陽性反応を示し、本物質の分類として感作性あり(sensitizing)とされている(DFGMAK-Doc. 2(1991))。また、職業ばく露では皮膚炎など皮膚疾患を有する労働者の皮膚塗布試験の結果、陽性反応が認められた多数の報告(DFGMAK-Doc. 2(1991))がある。動物への影響: モルモットのマキシマイゼーション試験で陽性率は22%~40%を示し、本物質にはアレルギー作用がある(DFGMAK-Doc. 2(1991))と報告されている。さらに、(Contact Dermatitis (Frosch)に接触アレルギー物質として掲載されている(Contact Dermatitis (4th, 2006)、List1相当)。以上の知見により区分1Aとした。

生殖細胞変異原性:

区分に該当しない(区分外)

症状: 陰性 マウスに経口投与による小核試験(in vivo変異原性試験)において、陰性の結果(DFGMAK-Doc. 2(1991))に基づき区分外とした。

発がん性:

分類できない

所見(症状) データ不足のため分類できない。

生殖毒性:

分類できない

所見(症状) ラットを用いた二世世代試験で、親動物の毒性が500 ppmで観察され、仔の発達および生存への悪影響が1000 ppmで報告された(EPA RED (2005))とあるが、仔の悪影響についての詳細な記載がなく不明であり、性機能および生殖能に及ぼす影響についてもデータが具体的に示されていないので「分類できない」とした。

安全データシート(SDS)

作成: 2023/02/10

改訂: 2024/01/24

製品名: フルウォッシュ

特定標的臓器毒性(単回ばく露):	区分2(神経系) ラットの急性経口毒性試験で神経毒性が観察され、300 mg/kg以上で立毛、脊柱の上方彎曲、900 mg/kgで活動低下、虚脱、腹筋の緊張低下、正向反射の低下、呼吸数減少であったとの記述(EPA RED(2005))に基づき、用量がガイダンス値区分2に相当していることから区分2(神経系)とした。
特定標的臓器毒性(反復ばく露):	分類できない ラットの90日間混餌投与試験(0.002~0.1%)において、高濃度群(0.1%)で見られた肝臓と下垂体の重量低下を除き、血液学および生化学的变化は見られず、病理組織学的にも顕著な所見は報告されていない(DFGMAK-Doc. 2(1991))。また、イヌの90日間混餌投与試験(55~495 mg/kg/day)において、摂餌量低下、体重増加抑制、軽度の貧血が現れたが、その他には悪影響は認められず、NOELは165 mg/kg/dayと報告されている(DFGMAK-Doc. 2(1991))。以上の結果から、経口経路で区分外相当と見なせるが、他経路のデータはなくその影響について不明であり、特定標的臓器毒性(反復ばく露)の分類としては「分類できない」とした。
誤えん有害性:	分類できない 人への影響: データ不足のため分類できない。
ジエチレングリコールモノメチルエーテル(別名メチルカルビトール)(安衛法通知/表示物質 令和6年4月1日以降)	
急性毒性(経口):	区分に該当しない(区分外) LD50: 5500~9210 mg/kg[ラット]
急性毒性(経皮):	区分に該当しない(区分外) LD50: 6540~20400 mg/kg[ウサギ]
急性毒性(吸入):	区分に該当しない(分類対象外)(気体) 分類できない(蒸気) 区分に該当しない(区分外)(粉塵・ミスト) LC50: > 50 mg/L[ラット]
皮膚腐食性/刺激性:	区分に該当しない(区分外) 動物への影響: ウサギ(n=6)を用いた皮膚刺激性試験(OECD TG 404 相当、閉塞、4時間適用、72時間観察)において、皮膚刺激性はみられなかった(紅斑・痂皮スコア: 0/0/0/0/0/0、浮腫スコア: 0/0/0/0/0/0)との報告がある(EU RAR (2000)、AICIS IMAP (2013)、REACH登録情報 (Accessed July 2021)、Government of Canada, Hazardous Substance Assessment (2020))。ウサギ、モルモットを用いたDraize試験において、軽度の皮膚刺激性を示したとの報告がある(Government of Canada, Hazardous Substance Assessment (2020))。以上より、区分に該当しない。

安全データシート(SDS)

作成: 2023/02/10

改訂: 2024/01/24

製品名: フルウォッシュ

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性:	区分に該当しない(区分外) 動物への影響:ウサギ(n=6)を用いた眼刺激性試験(OECD TG 405 相当、72時間観察)において、適用後24/48/72hの角膜混濁スコアの平均は0.1、虹彩炎スコアの平均は0.1、結膜発赤スコアの平均は0、結膜浮腫スコアの平均は0であったとの報告がある(EU RAR (2000)、AICIS IMAP (2013)、REACH登録情報 (Accessed July 2021)、Government of Canada, Hazardous Substance Assessment (2020))。ウサギを用いた眼刺激性試験において、角膜影響のない、極軽度の刺激性がみられたとの報告がある(Government of Canada, Hazardous Substance Assessment (2020))。ウサギの眼に本物質原液を5日/週の頻度で2週間(計10回)反復適用した結果、軽度の刺激性を超えることはなかったとの報告がある(Government of Canada, Hazardous Substance Assessment (2020))。以上より、区分に該当しない。
呼吸器感作性:	分類できない 人への影響:データ不足のため分類できない。
皮膚感作性:	区分に該当しない(区分外) 人への影響:25名のボランティアに対する本物質20%溶液を用いた Maximisation試験において、皮膚感作性はみられなかったとの報告がある(EU RAR (2000)、AICIS IMAP (2013)、Government of Canada, Hazardous Substance Assessment (2020))。動物への影響:モルモット(n=10)を用いたMaximisation試験(OECD TG 406、GLP、皮内投与:5%溶液)において、全例で感作反応はみられなかったとの報告がある(EU RAR (2000)、REACH登録情報 (Accessed July 2021)、Government of Canada, Hazardous Substance Assessment (2020))。以上のヒト及び動物の知見より、区分に該当しない。
生殖細胞変異原性:	区分に該当しない(区分外) 症状:陰性 in vitroでは、細菌復帰突然変異試験、ほ乳類培養細胞(チャイニーズハムスターV79細胞)を用いた染色体異常試験で陰性であった(EU RAR (2000)、ECETOC TR 95 vol. 1 (2005)、AICIS IMAP (2013)、Government of Canada, Hazardous Substance Assessment (2020))。上記知見等からEU、カナダ、オーストラリア、ECETOCは、本物質は変異原性ではないと結論している(EU RAR (2000)、ECETOC TR 95 vol. 1 (2005)、AICIS IMAP (2013)、Government of Canada, Hazardous Substance Assessment (2020))。以上より、in vivoデータはないが、標準的な2つのin vitro試験系で陰性の結果があり、類縁化合物の情報も考慮し、区分に該当しない。
発がん性:	分類できない 所見(症状) データ不足のため分類できない。
生殖毒性:	区分1B EU:Repr. 1B

安全データシート(SDS)

作成: 2023/02/10

改訂: 2024/01/24

製品名: フルウォッシュ

特定標的臓器毒性(単回ばく露):

区分3(麻酔作用)

ラットを用いた単回経口投与試験において、ふらつき、平衡喪失、アパシーと肝臓及び腎臓障害がみられたとの報告がある(EU RAR (2000))。マウスを用いた単回経口投与試験において、自律神経系影響、嗜眠、チアノーゼがみられたとの報告がある(EU RAR (2000))。ウサギを用いた単回経口投与試験において、不活発、歩行以上、衰弱がみられたとの報告がある(EU RAR (2000))。マウスを用いた単回経口投与試験において、7,128 mg/kg(絶食)及び8,188 mg/kg(非絶食)(区分に該当しない範囲)で努力呼吸、促拍呼吸、食欲低下、軽度から中程度の虚弱、振戦及び衰弱がみられたとの報告がある(REACH登録情報 (Accessed July 2021))。ウサギを用いた単回経皮投与試験において、低用量で食欲不振、軽度抑うつ、チアノーゼ、運動失調、軟便、高用量で流涎、鼻汁、虹彩炎、明瞭な抑うつ、努力呼吸、衰弱がみられたとの報告がある(REACH登録情報 (Accessed July 2021))。以上より、区分3(麻酔作用)とした。

特定標的臓器毒性(反復ばく露):

分類できない

モルモットを用いた13週間経皮投与試験(6時間/日、5日/週)において、40 mg/kg/day(28.6 mg/kg/day、区分2の範囲)で腎臓に組織変化はみられなかったが、門脈周囲肝細胞の脂肪化と尿中Caレベルの増加がみられ、200 mg/kg/day(143 mg/kg/day、区分2の範囲)で血清LDHの増加がみられたとの報告がある(EU RAR (2000)、ECETOC TR (2005)、AICIS IMAP (2013)、Government of Canada, Hazardous Substance Assessment (2020))。経皮投与試験でみられた肝臓影響について、SIARでは微小な変化であると評価され、EU RARでは肝臓への影響と本物質の関連性は不明であると記載されている(SIAR(1999)、EU RAR(2000))。ラットを用いた90日間吸入ばく露試験(GLP、蒸気、6時間/日、5日/週)において、1.06 mg/L(0.757 mg/L、区分2の範囲)で影響がみられなかったとの報告がある(EU RAR (2000)、ECETOC TR (2005)、AICIS IMAP (2013)、Government of Canada, Hazardous Substance Assessment (2020))。以上より、経皮経路では肝臓への影響が考えられるが、標的臓器には採用しない。また、吸入経路では、区分を特定できない。以上のことから、データ不足のため分類できない。

誤えん有害性:

分類できない

人への影響: データ不足のため分類できない。

12. 環境影響情報

製品

生態毒性:

急性毒性:

慢性毒性:

残留性・分解性:

生体蓄積性:

土壌中の移動性:

区分3

区分に該当しない(区分外)

情報なし

情報なし

情報なし

安全データシート(SDS)

作成: 2023/02/10

改訂: 2024/01/24

製品名: フルウォッシュ

成分	オゾン層への有害性:	分類できない
	他の有害影響:	情報なし
ポリ(オキシエチレン)＝アルキルエーテル	生態毒性:	
	急性毒性:	区分2
	慢性毒性:	分類できない
	オゾン層への有害性:	分類できない
直鎖アルキルベンゼンスルホン酸ナトリウム(C=10-13)	生態毒性:	
	急性毒性:	区分1
	魚類:	96hLC50: 3.8～6.6 mg/L[ニジマス], 96hLC50: 3.4 mg/L[ファットヘッドミノー], 96hLC50: 0.7 mg/L[ファットヘッドミノー], 96hLC50: 2.2 mg/L[ブルーギル], 96hLC50: 0.6～1.9 mg/L[ゼブラフィッシュ], 96hLC50: 5.1 mg/L[ゼブラフィッシュ]
	甲殻類:	48hEC50: 0.63 mg/L[オオミジンコ]
	藻類:	72hEC50: 11 mg/L[プセウドキルクネリエラ], 96hEC50: 9 mg/L[デスマス], 96hEC50: 4.29～12.5 mg/L[プセウドキルクネリエラ]
	慢性毒性:	分類できない
	生体蓄積性:	87 L/kg BCF method: OECD Guideline 305 E species: ファットヘッドミノー (ECHA_API)
	オゾン層への有害性:	分類できない
トリエタノールアミン	生態毒性:	
	急性毒性:	区分に該当しない(区分外)
	魚類:	96hrLC50: 11800 mg/L[ファットヘッドミノー]
	甲殻類:	24hrEC50: 1386 mg/L[オオミジンコ]
	藻類:	96hrErC50: 169 mg/L[セネデスマス]
	慢性毒性:	区分に該当しない(区分外)
	魚類:	データなし。
	甲殻類:	21dayNOEC: 16 mg/L[オオミジンコ]
	藻類:	データなし。
	残留性・分解性:	急速分解性なし。
	生体蓄積性:	低濃縮性
	土壤中の移動性:	データなし。
	オゾン層への有害性:	分類できない
防腐剤	生態毒性:	
	急性毒性:	区分1
	魚類:	データなし。
	甲殻類:	データなし。
	藻類:	72hrErC50: 0.22 mg/L[ムレミカツキモ]
	慢性毒性:	区分1

安全データシート(SDS)

作成: 2023/02/10

改訂: 2024/01/24

製品名: フルウォッシュ

魚類:	データなし。
藻類:	72hrNOEC: 40.3 μ g/L[ムレミカヅキモ]
残留性・分解性:	急速分解性なし。
生体蓄積性:	低濃縮性
土壤中の移動性:	データなし。
オゾン層への有害性:	分類できない
ジエチレングリコールモノメチルエーテル(別名メチルカルビトール)(安衛法通知/表示物質 令和6年4月1日以降)	
生態毒性:	
急性毒性:	区分に該当しない(区分外)
魚類:	96hrLC50: 5700 mg/L[ファットヘッドミノー]
甲殻類:	48hrEC50: > 500 mg/L[オオミジンコ]
藻類:	96hrEC50: > 1000 mg/L[ムレミカヅキモ]
慢性毒性:	区分に該当しない(区分外)
魚類:	データなし。
甲殻類:	データなし。
藻類:	データなし。
残留性・分解性:	良分解性
生体蓄積性:	データなし。
土壤中の移動性:	データなし。
オゾン層への有害性:	分類できない

13. 廃棄上の注意

廃棄方法: 内容物や容器等の廃棄物は、許可を受けた廃棄物処理業者に委託して処理すること。
排水処理、焼却処理などにより生じた残渣物などについても、廃棄物の処理と清掃に関する法律及び関連法令に準じて処理を行うか、委託すること。
廃棄処理を委託処理する際は、許可を受けた廃棄物処分業者と委託契約を結びマニフェストを添付して依頼すること。
リサイクル容器は内部に何も入れず、栓をしてそのまま返却すること。

14. 輸送上の注意

国内規制がある場合の規制情報: 容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れ防止を確実にすること。
「第6項. 漏出時の措置」の記載に従うこと。
「第7項. 取扱い及び保管上の注意」の記載に従うこと。
海上輸送にあたっては、「船舶安全法」及び「海洋汚染及び海難防止法」の規定を遵守してください。
航空輸送中は「航空法」の規定に従ってください。

輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策: 陸上輸送: 道路法令の通行禁止・制限に関する規定を遵守すること。
海上輸送: 船舶安全法の定める所に従うこと。
航空輸送: 航空法の定める所に従うこと。

安全データシート(SDS)

作成: 2023/02/10

改訂: 2024/01/24

製品名: フルウォッシュ

15. 適用法令

労働安全衛生法:	名称等を通知すべき危険物及び有害物(トリエタノールアミン,ジエチレングリコールモノメチルエーテル(別名メラルカルビトール)(安衛法通知/表示物質 令和6年4月1日以降))
化学物質排出把握管理促進法(PRTR法):	第1種指定化学物質(アルファ-アルキル-オメガ-ヒドロキシポリ[オキシエタン-1,2-ジイル/オキシ(メチルエタン-1,2-ジイル)],ポリ(オキシエチレン)=アルキルエーテル,直鎖アルキルベンゼンスルホン酸ナトリウム(C=10-13),直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩(アルキル基の炭素数が10から14までのもの及びその混合物に限る。)*,ポリ(オキシエチレン)=アルキルエーテル(アルキル基の炭素数が12から15までのもの及びその混合物に限る。)*,アルファ-アルキル-オメガ-ヒドロキシポリ[オキシエタン-1,2-ジイル/オキシ(メチルエタン-1,2-ジイル)](アルキル基の構造が分枝であり、かつ、当該アルキル基の炭素数が9から11までのものの混合物(当該アルキル基の炭素数が10のものを主成分とするものに限る。))に限る。)*
毒物及び劇物取締法:	非該当
消防法:	非該当

16. その他の情報

注意事項:	<p>本データシートは作成時点の当社の知見に基づき危険有害性伝達の目的で作成しており、製品規格や物理化学的性質の値、危険・有害性の完全性・正確性を保証するものではありません。</p> <p>取扱注意事項等は通常の手配を対象としており、特別な手配や他の物質との混合を行う場合等には、別途状況に応じた安全対策を講じて下さい。</p> <p>また全ての化学品には未知の危険・有害性があり得るため、取扱いには細心の注意を払い、ご使用各位の責任に於いて安全な使用条件を設定の上でご使用下さるようお願い申し上げます。</p> <p>本データシートは、日本国内法令・JIS・日本化学工業協会のSDS作成指針に従って作成しており、日本国外での使用や輸送を想定したものではありませんのでご注意ください。</p> <p>第2項に記載していないGHS分類(危険有害性)は、「分類対象外」又は「分類できない」に該当致します。</p>
参考文献等:	GHS分類結果データベース 独立行政法人 製品評価技術基盤機構HP GHSモデルSDS情報 中央労働災害防止協会HP J-GLOBAL HP LOLI Database (UL Verification Services Inc.) JIS Z 7253 (2019) 原料メーカー発行SDS